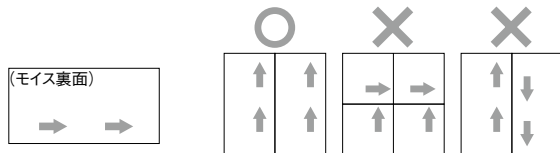


7. その他 (方向性、手摺、補修)

① モイスの方向性について

モイスは、抄造方法(和紙漉き要領)により成形し、最終工程で研磨による表面仕上げを施しています。したがって、製造方法上、方向性があります。方向を統一しないで施工すると仕上がりが状態が異なり、意匠的に不具合を起こす場合があります。施工時には裏面に記された矢印を考慮して施工してください。

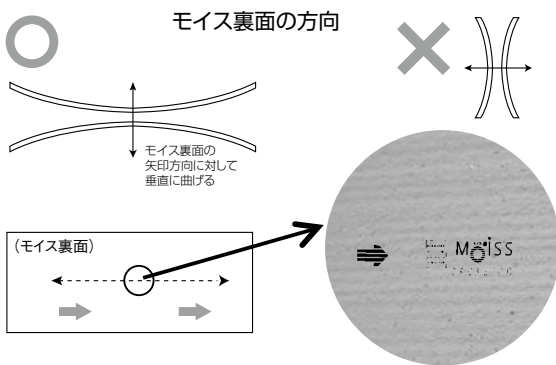


② 曲面施工について

モイスは、曲面施工ができます。ただし製造方法上方向性があるので、モイスの方向を確認し曲げ加工を行ってください。(下図参照) 施工する大きさに加工したモイスを20~30分真水に浸し、少しづつ力を与えながら、曲面に沿って曲げていきます。ここで過度に力を加えると破断してしまいますので注意してください。なお、下地の精度がそのまま仕上げに現れますので、下地の精度を十分に確保してください。



円形柱への施工(下地施工)



曲面施工の限界曲率

厚さ (mm)	曲げ半径 (mm)	備考
	ウェット	
6	500 以上	・ウェットの場合、所要時間の水浸し後、少しづつクセを付けながら繊維方向に垂直に曲げてください。
	900 以上	
9.5	900 以上	

③ 手すり等の取り付けについて

モイスを使用した壁に手すり、エアコン、フック等負荷がかかるものを取り付ける場合は、必ず下地材を取り付けるか、柱の部分に取り付けるようにしてください。

下地材は、厚さ12mm以上の合板または、35×105mm以上の受け材を推奨します。

④ 補修について

[1] 施工中の傷、汚れについて

大きな傷については、交換が基本となります。内部まで浸透してしまった染みについても同様です。施工中は、仕上げ材として慎重に作業してください。また、表面の養生についても必要に応じて行ってください。

[2] 専用パテについて

小さなキズやすき間は、モイス専用パテで補修が可能です。大きな欠けや損傷には適していません。また、パテ材は紫外線などに対して変色するおそれがあります。

⑤ 他材料による表面仕上げについて

モイスは、素地仕上げを標準としますが、クロス、壁紙、塗り壁等の仕上もできます。

※モイスNTへ表面仕上げを行った場合には、「調湿建材」対象外となります。